

ひとりから

子ども会情報紙『ひとりから』

発行日/2025年4月1日

発行/真宗大谷派(東本願寺) 青少幼年センター

〒600-8164 京都市下京区藤訪町通六条下る上柳町199

TEL: 075-354-3440 FAX: 075-371-6171

E-mail: oyc@higashihonganji.or.jp

全道
同朋大会



寺属
小中高生の
集い



あわせてもらおう...

かね いし じゅん どう
青少幼年センター研究員 金石 潤導

蓮ちゃん通信 その①

ほとけの子リーフレットNo.5 『お盆』を発行しました!

「ほとけの子リーフレット」No.5として、昨夏、『お盆』を発行しました。なぜお盆にお墓参りをするのか書かれています。これからの夏の子ども会や法務の場でご活用ください。

無 償

青少幼年センター
または
最寄りの教務所
でお求めいただけます。



報恩講帰りの門徒衆が「今年は、いい報恩講にあわせてもらった…」としみじみと呟っていたことが、耳に残っていると飛騨高山の住職は語っておられた。

「あわせてもらおう」なんと素敵な響きだろうか...

報恩講という場にあうことを謙虚に且つ丁寧に表現した言葉ともうけとれるが、もう一方の意味があるとしたならば、場にあうことを通じて確かなことをもらっていったのだ。

「あう」ことそのものがギフトとも言えるが、「あう」ことによって思いがけず自らにギフトされる問いや願いや気づきというものがある。それが「もらおう」ということではないか...

そもそも自分というものを考えてみても「もらって」きたことばかりのような気がする。それは喜びや楽しさだけでなく、痛み苦しみ悲しみがそうだ...

場には願いがかけられているから、人は場に育てられるというが、やはりそれは人を介してのことだと思う。「励ますことで励まされる」という名言があるように、真宗の子ども会は、子ども会という場にあうことはもちろんだが、やはり小さい人たちにあうことが必要だ。ひとりにあうことによって、その尊さとかけがえのなさを知られる。そして、こちらがもらうのだ。せずにはいられないことへの意欲や勇気を!

当たり前ではないこと

京都教区近江第3組 覚成寺

高木 淳善^{たかぎ あつよし}

新しい教科書

春は進学・進級の季節ですね。新学期が始まると、学校で新しい教科書を受け取ります。新しい教科書を手にすると、一つ大きくなった期待感や緊張感を感じるのではないかなと思います。

ところで皆さんは、教科書が無料だということを知っていますか？普通、本を買うときはお金を払いますよね。教科書はその必要がないのです。どうしてこのようになっていたのでしょうか。

実は今から六十数年前までは、教科書は無料ではありませんでした。その頃の小学生や中学生は、お家の人がお金を払って教科書を買ってくれていたのです。

でも中には、家庭の事情などで教科書を買ってもらえなかった人たちもいました。同じ教室の中に、教科書を持っている人と持っていない人がいたのです。皆さんはどう思いますか？教科書が無いことを恥ずかしく思う人や、授業についていくのが難しくて辛い思いをしていた人がいたのです。

このようなことを悲しんだお父さん・

お母さんたちが、誰もが教科書を手にすることができるよう、国に対して教科書を無料にしてほしいという運動を始めました。大変な運動だったと思います。そしてついに「すべての子どもたちが同じように勉強できるように」という強い思いが通じて、教科書は無料になったのです。

大切なこと

ここで皆さんに知っておいてほしい大切なことが三つあります。

一つ目は、教科書が無料なのは決して当たり前ではないということです。日本に住む人たちの権利や義務について書かれた日本国憲法には「義務教育はこれを無償とする」とされているので、教科書が無料なのも当然と思うかもしれませんが、実際には先ほどお話しした運動の結果、ようやく実現したことなのです。

二つ目は、その運動の背景には「子どもたちに辛い思いをさせ



子どもたちと聞く法話

ず、安心して勉強してほしい」というお父さん・お母さんたちの思いがあったということです。皆さんにはその思いを忘れないでほしいのです。

三つ目は、無料というのはタダということではなくて、実は皆さんの親の代わりに教科書の代金を払ってくれている人がいるということです。正確には教科書の代金は税金から支払われているのですが、その税金は元をたどれば、皆さんが会ったこともない、名前も知らない人たちが払ってくれているのです。

このように考えると、皆さんが無料で教科書を手にしていることが、とても不思議なことのように感じませんか？昔から今までの多くの人たちのおかげで、皆さんは教科書を無料で使うことができているのですよ。

だから皆さんには感謝の気持ちを持って、教科書を大切に使うしてほしいと思います。

当たり前前に感謝

教科書だけではありません。当たり前のように見えて、実はそうではないものはたくさんあります。

コロナ下が終わって、マスクをせずに生活できるようになり、友だちの笑顔を見ることができるようになりました。おしゃべりしながら楽しく給食を食べることもできるようになりました

ね。今となっては当たり前のように思いますが、「コロナ下の頃にはそれができなかったことを思うと、当たり前のことがとても貴重なことのように思えませんか？

皆さんも、自分の周りの「当たり前ではないこと」を探してみてください。

最後に一つ、当たり前ではないことをお話しします。それは皆さんが今、生きていることです。

私たちが生まれるまでには想像もつかないほどのたくさんのいのちのつながりがあり、奇跡的な偶然で私という一人の人間が生まれました。決して当たり前前に生まれてきたわけではないのです。

生まれてきた私が今生きているのも、とても不思議なことです。心臓が動いている、寝ている間も息をしている、朝が来たら目が覚める……どれも自分で考えてしていることではないですよね。いのちが活動してくれているからです。

毎日の食事は、多くの生き物のいのちをいただいて食べています。そうやって私たちは生きているのです。

私たちは、多くのいのちのつながりの中で生きています。ふだんはこのことを忘れていかもしれませんが、時々思い出してほしいのです。そして自分が今生きていることに感謝し、丁寧に生きる人になってほしいと思います。

少人数でも・大人数でもできる

じゃんけんゲーム



準備物不要!
いつでも どこでも 誰とでも
できるよ!

子ども会や
法話前の頭の体操としても
オススメ!

1 ひとりで〈両手を出す〉

“じゃんけんポン”のかけ声で
片手は勝つ 手をそれぞれ出す。
片手は負ける



2 司会者ありで〈後出しじゃんけん〉

司会者の“じゃんけんポン、ポン”の
2回目の“ポン”のかけ声で出す。

片手だけを使う場合
勝つ手を出しつづける。

負ける手だけ
出すのもおもしろいよ!



かけ声のスピードをあげていくと
難しくなっていくよ!

両手を使う場合

片手は勝つ手、
片手は負ける手
を出しつづける。



3 グループで〈協力じゃんけん〉

グループ内であいこになるまで
じゃんけんをする。
さあ、何回であいこになるかな?

みんなでそろうのがおもしろい!!

グループ 対 グループにしても
もりあがるよ!!



蓮ちゃん通信 その②

キャラクターシール リニューアルしました!

1月よりキャラクターシールのデザインをリニューアルしました。
東本願寺参拝記念のお土産や子ども会参加記念品にどうぞ。

●価格:1,000円(税込) ※50枚綴り ●ご注文は青少幼年センターまで TEL:075-354-3440



「ひとりから」はじめる仏事

子どもたちに
伝えてみませんか？

※大正時代、本山社会課から『児童と宗教』という児童教化の指導者のための雑誌が発刊されていました。そこには、先輩方が伝えてくださった遺産がたくさん。このコーナーでは、そこに連載されていた「教案」から、私たちの生活の中の仏事に関するものをサガエさんがリライトしてお届けします!!

※本山社会課…社会と寺院をつなぐべく初めて派内に設置された宗務組織。宗派の青少年教化を担っていた。

「聖句」

き みょう む りょう じゅ にょ らい
歸命無量寿如来
な む ふ か し ぎ こう
南無不可思議光

阿弥陀さまの「^{いのち}寿命」はいつまでも限りなく、「^{ひかり}光明」は内側も外側も限りなくすべてを照らす仏様です。どんなときも、「阿弥陀さま」は、わたしたちを、いつまでも「いのち」輝く「ほとけの子」として導いてくれます。



出典：幡谷淳信「私たちの仏様」
『児童と宗教』4巻11号より、一部抜粋、現代語訳
リライト：“サガエさん”こと佐賀枝夏文

ボクはこんな風に話してみました



さ が え なつふみ
佐賀枝 夏文
(大谷大学名誉教授)

みんなで声にだして読む『^{しょうしんげ}正信偈』の言葉を紹介します。『正信偈』は親鸞聖人の大切な教えが書かれてあります。今日の言葉は、『正信偈』のはじめにあります。親鸞聖人が大切にされ、そして、一番大事な言葉です。この言葉を声に出して、何度もくり返すといいね。

コーナーの活用例

- ④ 本文をそのまま覚えて話す。または、ご自身の表現で話す。
 - ④ プリントして配布し、朗読する。
- 上記以外にもその場に合わせでご活用ください!

本文のPDFデータは、青少年センターホームページ「子どもとあそぼう」のコーナーからダウンロードいただけます。

◎当たり前が当たり前ではないと気づくのは、日常では難しいことです。残酷ながら、それまでの日常が崩れて初めて、見えてくるものがほとんどだと言ってもよいでしょう。しかし、私の「今、ここ」をふと見つめる、こぼれるほどの「奇跡」がある。子どもと一緒に見つけてみようと思います。

(編集長 池崎方子)

◎子ども会は季節感が大事と聞く。私は若い時、季節感がない服装をしていた。季節を味わうことに無頓着だった。それはふりかえると寂しいことでないかと思っただ。極端な言い方かもしれないが私の心が現実を生きないようなにも思えた。「今、人間として生きて、どんな時を生きているのか？」この事実を伝え確かめ合うことは大事だと思ふようになった。春はどんな時でしょうか。

(青少年センター主幹 藤間哲祐)

編集後記



真宗大谷派の青少年教化の情報をお届けします。
<https://www.facebook.com/ojc.hitorikara/>
※facebookの個人アカウントをお持ちでなくてもご覧いただけます。

●真宗大谷派(東本願寺)青少年センター TEL.075-354-3440



青少年センターホームページ

東本願寺 青少年センター

ぜひ、ご覧ください!!

検索